

広島県高等学校体育連盟空手道専門部 申し合わせ事項

広島県高等学校体育連盟空手道専門部(R06/09)

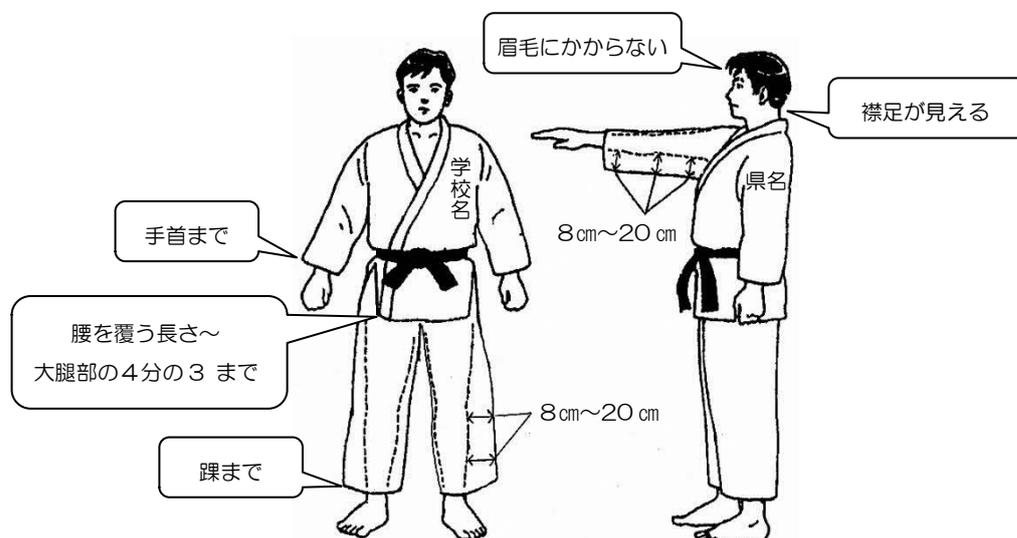
平素は高等学校空手道発展の為に、御理解・御協力を頂き感謝申し上げます。

大会は、(公財)全日本空手道連盟競技規定(JKF 2023年4月1日初版)並びに(公財)全国高等学校体育連盟空手道専門部及び広島県高等学校体育連盟空手道専門部の申し合わせ事項に則って行われます。

大会出場に関しましては、「大会申し合わせ事項」に御留意して頂きますとともに、競技上の事につきましては、最終的には審判団が決めたことに従い、円滑な競技運営に御協力下さい。

1 空手道衣について

- (1) 形は、従来型のベーシックな物(無駄なカット等の無い物)とし、袖や裾、その他の部分において変形することを禁止する。
 - (2) 色は白無地一色とし、落書きやフチどりのあるものは禁止とする。
 - (3) 上着は必ず腰紐のあるものを着用し、試合開始前に結んでおかねばならない。試合時も結んでいることとし、試合中にちぎれた場合は、上着を替える必要はない。また、上着の胸紐は、付けてはいけない。
 - (4) 帯でウエストを締めたと時の上着の長さは、腰を覆うほどの長さとし、大腿部の4分の3までとする。(測定方法として帯を締めた状態で、真直ぐ下した状態で膝の上10cmまでとする。)
 - (5) 上着の袖の長さは手首までとし、肘から前腕の中程より短くてはならない。また、上着の袖をまくってはならない。
 - (6) ズボンの長さは、少なくとも脛の3分の2を覆う程の長さとし、踝が隠れてはならない。また、裾をまくり上げてはならない。
 - (7) 道衣の袖の空き、及びズボンの空きの寸法については、次のとおりとする。
 - ア 上着の袖の空きは、袖全体にわたって、袖と腕との間(袖を片側に寄せた状態)が8cm~20cmでなければならない。
 - イ ズボンの空きは、ズボン全体にわたって、ズボンと脚との間(シンガードを付けずに、ズボンを片側に寄せた状態)が8cm~20cmでなければならない。
- [注1] (5)、(6)、(7)は、「気を付け」の状態で判断する。
[注2] 破損(破れ等)のある道衣で競技への出場はできない。破損のある道衣は修理しておくこと、また清潔な道衣を着用すること。
[注3] 袖・裾の折り込み使用は、内外問わず認めない。(内側に縫い付けてあれば可)
[注4] 帯止め(ゴム・バンド・マジックテープなど)は使用できない。
[注5] 袖・裾やその他の部分において変形することを禁止する。



- (8) 空手道衣(上下)に高体連指定ラベル(黒色)が縫い付けてあること。(高体連ラベル付きであっても、空手道衣の規定に反する場合は、大会に出場できない。)

高体連指定ラベル(黒色)は、次の11社にて縫い付けが可能である。

東海堂・守礼堂・ヒロタ・東京堂インターナショナル・尚武・山雅・ミツボシ(HAYATE)
・泰生・リュウジンスポーツ(adidas)・Arawaza Japan(Arawaza)・
BUDO SPORTS PRO-SHOP(MOOTO 形用のみ)

- (9) 帯の長さは、結び目の両端から15cmほど残る長さから、大腿部の4分の3を越えないものとする。
(10) 競技以外(開会式・閉会式など)の帯の色は、白・茶・黒のいずれかを使用し、ゴムやマジックテープなどをつけることを禁止する。
(11) 競技用として、赤・青色の帯を持参し使用する。

各競技では赤・青色の帯を使用し、準備は各選手または各学校が行う。

使用できる赤・青帯は、全空連検定ラベルと高体連指定ラベル(グレー)の両方がついているものとする。(指定業者5社：東海道・守礼堂・ヒロタ・尚武・ミツボシ)

刺繍は一切ないものが望ましいが、刺繍をする場合は「〇〇高等学校空手道部」「〇〇高等学校」「〇〇県高等学校体育連盟」「全国高等学校体育連盟」「全日本空手道連盟」「個人名」の類いとし、会派(流派)名や道場名は不可とする。

また、刺繍の色は「金色または銀色」とする。

なお、テーピングテープ等を帯に巻き、刺繍を隠す行為は認められない。

- (12) 空手道衣の左胸に学校名を入れ、その基準は次のとおりとする。

ア 1文字の大きさは、5cm×5cm～7cm×7cmとする。

イ 縦書きで、全体を7cm×15cm程度とする。

ウ 「高校」や「学校」の文字は必ずしも入れなくてもよい。

エ 文字は丸ゴシック・行書・楷書の範囲とする。

オ 文字の色は、黒・紺・スクールカラーの単色とする。

[注] ワッペン式のもの、必ず縫い付け、外れないようにすること。

学校名

- (13) 空手道衣の左袖上腕部に県名を入れ、その基準は次のとおりとする。

ア 1文字の大きさは、5cm×5cm～7cm×7cmとする。

イ 「県」の文字はいれなくてもよい。

ウ 文字は丸ゴシック・行書・楷書の範囲で横書とする。

エ 文字の色は、黒・紺・スクールカラーの単色とする。

[注] ワッペン式のもの、必ず縫い付け、外れないようにすること。

県名

- (14) 空手道衣の背面には、全国高体連空手道専門部指定のゼッケンを全周縫い付けで取り付けること。

- (15) 決められた場所(胸の学校名、袖の県名、上着とズボンの名前)以外に刺繍等をする事は禁止する。ただし、業者メーカー刺繍については、全空連が認めるようになったのでそれに準ずる。また、上着(ラベルの上)・ズボン(ラベルの横)に名前を入れる場合、刺繍の色は黒色とし(白色も禁止)、自分の姓(名字)またフルネームであることが望ましい。

2 出場選手の頭髪・服装などは、次のとおりとする。

- (1) 男子は、スポーツマンらしい頭髪にし、長くても「まゆげ」にかからず、「耳」が見え、「襟足」が見えるように整髪する。
- (2) パーマ・リーゼント・ソリ・ヒゲ・染色・脱色などを禁止する。
- (3) ヘアピンなどの危険物の使用および、リボン・鉢巻きの使用を禁止する。ただし、髪を1つに束ねるための目立たないゴムバンドは2つまで認められる。
- (4) 女子の空手道衣の下は白無地のTシャツとする。ただし、ワンポイントの学校名もしくはワンポイントのロゴ入りは認める。
- (5) 競技者は手足の爪を短くし、相手に傷を与えるような金属または他のものを身に付けてはならない。
- (6) 競技者が道衣の上に衣類を着用する場合は、だらしない着方をせず競技開始時には速やかに脱ぐこと。(脱いだ衣類はただんで置くこと。)

3 負傷及び再発防止のための包帯、サポーター、テーピングの使用を次の条件で許可する。

- (1) 攻撃および防御強化のために使用してはならない。
- (2) 相手に危害を及ぼすようなものを中に入れてはならない。
- (3) 装着不備により、競技をしばしば中断させないこと。
- (4) 包帯・テープの色は、白またはベージュ系の2色のみとし、清潔なものであること。
- (5) サポーターの色は、白またはベージュ系の2色のみとするが、膝についてはこの限りではない。
(清潔なものを使用すること)
- (6) 包帯・テープとサポーターの同一箇所への兼用は禁止する。
[注1] あくまでも選手の安全と再発防止のため、軽度の疾病者を対象にしたものであり、常識を逸脱するような内容のもの及び重傷者の出場を許可するものではない。
[注2] 上記に違反したものは、当該競技種目のみ「反則負け」とする。

4 形競技・組手競技ともにメガネ・コンタクトレンズ(ハード)の使用は禁止とする。ただし、ソフトコンタクトレンズの使用は、個人の責任において認める。

5 組手競技では、男子6点・女子5点の安全具を必ず着用する。

	安全具	指定メーカーおよび注意事項
(1)	メソホー	全空連検定品 ミズノ ニューメンホーⅦ ※両耳前部分のミズノマークのシールや額部分の全空連マークの刻印を確認
(2)	拳サポーター	ミズノ・東海堂・守礼堂・ヒロタ・ミツボシ(HAYATE) ※全空連仕様の薄手タイプ(従来型)
(3)	ボディプロテクター	ミズノ ※首掛けまたは腹掛けタイプ(高体連ラベル不要)
		東海堂 ※男子：ラベル無し、高体連マークがプリント ※女子：青色高体連ラベル
		守礼堂 ※首掛け又は腹掛けタイプ(青色高体連ラベルは折って縫い付け)
		ヒロタ・東京堂インターナショナル ※腹掛けタイプ(青色高体連ラベル)
(4)	シンガード	ミズノ・東海堂 ※高体連マークがプリントされた物も使用可
		守礼堂・ヒロタ・東京堂インターナショナル・ミツボシ(HAYATE) ※白色高体連ラベル
(5)	インステップガード	ミズノ・東海堂・ヒロタ・ミツボシ(HAYATE) ※高体連マークがプリント、足の指先まで保護されている
		守礼堂・東京堂インターナショナル ※高体連マークがプリント
(6)	セーフティカップ	男子のみ

(7) マウスピースの使用は任意で認めるが、色は白色及び透明色のみとする。

(8) マウスシールド(ミズノ製のみ)の装着は任意とするが、必ずテープで固定すること。

[注1] (3)、(4)、(5)、(6)は、道衣の下に着用すること。

[注2] 違反者は「反則負け」(ただし、2分間ルール適用)

[注3] 安全具の破損(破れなど)や改造したものは使用でない。

[注4] 各安全具でゴム部分が伸びきったもの、マジックテープ部分の弱くなったものなどは、競技を中断させるなどの支障をきたす可能性があるので使用しないこと。

6 服装等の不備は、形競技では1分間、組手競技では2分間の猶予を与え、直らない場合は当該競技種目のみ「反則負け」とする。

形競技規定

1 競技方法について

- (1) 個人戦・団体戦ともに2023年度改定の得点制とする。
- (2) 個人形及び団体形競技の第1ラウンドは、(公財)全日本空手道連盟「第一・二指定形」とする。第2ラウンド以降は、(公財)全日本空手道連盟「得意形」とし一度使った形は使えない。(個人戦では最多4つ、団体戦では最多2つの形が必要)
- (3) 上位ラウンド進出に関わる時とメダルマッチの時に同点が出た場合、得点の内容で決定する。
- (4) 「次ラウンド進出決定戦」で使用した形は、それまでの本戦で使用していなければ、その後のラウンドで使用できる。
- (5) 「第一指定形・第二指定形」及び「得意形」は空手競技規定(JKF2023年度4月1日初版発行)形競技の「付録4：全空連指定形リスト」並びに「付録5：全空連得意形リスト」から選択しなければならない。
- (6) 団体競技は、規定の選手数(3人)を満たさないと成立しない。
- (7) 団体競技に於いて、登録されたメンバーの枠内で各回戦毎の選手交替はできる。ただし、各回戦毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- (8) 団体競技において「よい、はじめ」「なおって」などの発生(合図)は行わない。
- (9) 応援による「決まった」などの掛け声は自粛する。(応援は拍手で行う)
- (10) 団体競技の決勝においては、形演武の後にその形の分解演武を導入する。
- (11) 分解演武中に2秒を超えて意識がないように演じるのは不適切である。(倒れた後、片膝まで起き上がるか、または立ち上がっていなければならないので注意すること。)

2 礼法について

- (1) 選手の礼法(団体形・個人形)については、次のとおりとする。
 - ア 選手はtatami中央から入場する。(入場の際は礼をしない)
 - イ 演武位置に立ち「礼①」をして演武を始める。
 - ウ 演武が終了したら「礼②」をして、得点発表を待つ。(その時、次の選手はtatami横で待機する)
 - エ 得点発表の後、「短礼」をしてtatamiから退場する。(退場の際は礼をしない)
 - [注1] 「礼①」及び「礼②」をしなかった場合は「反則負け」。
 - [注2] 礼の仕方や出来不出来は、形の判定には影響はしない。
 - [注3] メダルマッチの場合は得点発表がないので、係が得点を読み上げたら退場する。
- (2) 上記(1)「礼①」の後に、登録した「形名」を発声して演武を始めること。発声しない、聞こえない、不明瞭であった場合「反則負け」。

3 ルール上の反則行為(反則負け)について

- (1) 形の演武前後の礼をしなかった場合(団体の場合は、3名全員が礼をすること)。団体競技の場合、チーム全員が主審の方を向いて演武を開始・終了しなかった場合。
- (2) 異なる形を演武した場合、または異なる形名を告げて演武した場合。
- (3) あきらかに形が中断、または停止した場合。
- (4) 演武中に帯が落ちた場合。
- (5) 団体形の決勝戦で分解演武をしなかった場合。
- (6) 団体形の分解演武において、ノックダウンした場合。(怪我があった場合は減点)
- (7) 団体形の分解演武において、時間をオーバーした場合。(形演武と分解演武を合わせて5分以内と決められている。)
- (8) 審判妨害(安全性のために審判が動かざるを得ない場合・接触した場合)、また待機中の選手が審判の注意を引くような行為。
- (9) 主審の指示に従わなかった場合、品行を損なう行為。(失格の場合有り)
- (10) 失格は、当該競技種目のみとする。

4 団体形の分解演武における禁止事項(禁止行為)

選手の安全面を考慮し、形の分解演武ではルール上の反則行為以外に、次の行為を禁止する。

- (1) 首に蟹挟みをかける行為。
- (2) 相手を自分の肩より上に持ち上げる行為。
- (3) 相手を投げ捨てる行為。(投げる場合は、相手を片手で支えること。)

組手競技規定

1 競技時間及び勝敗について

- (1) ジュニア・カデットルールで実施する。
- (2) 上段への技は従来どおりとし、接触技は禁止(蹴り技のスキンタッチは許される)、蹴り技は10cm以内、突き技は5cm以内とする。
- (3) 競技時間は2分とする。
- (4) 競技が連続し、安全具等の色を変更する場合の休憩時間は、3分間とする。
- (5) 勝敗は、8ポイント以上差が生じた場合、または時間終了の際に得点の多い競技者、「先取」または「判定」により、または相手に反則・失格・棄権が科せられたことにより決められる。本戦で勝敗が決まらない場合は、判定で勝者を決定する。(団体競技では、引き分けと宣告し判定は行わない)
- (6) 団体競技は、初戦から規定の過半数の選手(5人制：3人、3人制：2人)で成立する。オーダーは、自由に配置することができる。
- (7) 団体競技において、登録されたメンバーの枠内で各回戦毎のオーダー変更はできる。ただし、各回戦毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- (8) 団体競技において、勝敗が同数の場合、ポイント数により判定を行い、ポイント数も同数の場合は代表決定戦を行う。(代表決定戦は、個人戦と同様に行う)
- (9) 団体競技では、1・2回戦は先鋒から大将まで全ての試合を行うが、3回戦以降は、勝敗が決まった段階で試合を終了する。
- (10) 団体競技では、安全具の使い回しはできない。
[注] 試合開始時に、選手全員が全ての安全具を装着済みでなければならない。
- (11) 一度棄権(団体戦)した選手は、以降の団体組手競技には出場できない。(他の種目に出場することはできる。)

2 組手競技に於ける危険回避(事故防止)のための遵守事項

- (1) メンホーは皮膚の一部であり、メンホーの開口部に手を入れたり、掴んだり、押したりそれに関連する動作は全て禁止とし、ペナルティが科せられる。
- (2) 安全具の装着は仕様に従い、しっかりと装着すること。

3 注意事項の確認

- (1) 安全域を含む試合場(10m×10m)内には、審判員と当該選手しか入れない。
- (2) 試合の開始は、異色マット前方の中央とする。(ラインテープは使用しない)
- (3) 競技中に競技者からのタイムの要求はできない。
- (4) 競技者が定位置に戻るときは速やかに戻る。だらしない態度や行動をしないこと。
- (5) 競技者が定位置に立ったときは、完全に静止し主審の合図を待つこと。
- (6) 試合中のオーバーアクション・ガッツポーズを禁止する。(監督や待機選手も同様とする)
- (7) 競技者が競技場内で円陣を作り、氣勢を上げる等の示威行為を禁止する。
- (8) 反則行為をした競技者は主審の宣告の後、一步前に出て相手選手に一礼をすること。
- (9) 競技者は、定位置のみならずtatamiへの入場・退場時にも「礼」をすること。
- (10) 10カウントルールを採用する。倒れたり、投げられたり、またノックダウンされ、10秒以内に立ち上がることが出来なかった競技者は、その大会期間中全ての組手競技への出場はできない。

- (11) 倒した、あるいは倒れた相手に対する蹴り技は認められるが、必要以上の加撃がないように十分注意すること。
- (12) ビデオレビューについては、現行では導入しない。

4 禁止事項の確認

- (1) 喉への接触技。
- (2) 攻撃部位に対する接触技。(技は全てコントロールされたものでなければならない)
- (3) 腕・または脚部への攻撃。股関節・関節又は足の甲及び脚の上部への攻撃。
- (4) 頭部、膝、肘での攻撃。貫手または開手による顔面への攻撃。(手刀、背刀は除く)
- (5) 相手が完全に着地できない、または負傷の原因となる危険な投げ技。
- (6) 両手で掴むこと、両手を使って投げること、または片手でも掴み続けること。
- (7) 帯から下の掴み。
- (8) 負傷を装うこと、または誇張すること。
- (9) 場外の繰り返し、または時間の浪費が多すぎる動き。
- (10) 自ら負傷を受けやすい様な行動をとること。
- (11) 相手に得点を取られない様、攻撃をしないで逃げること。(逃避)
- (12) 相手の安全を損なう技、または危険でコントロールされていない攻撃。
- (13) 不活動(戦おうとしない)。ただし、試合開始後最初の15秒間、および残り15秒未満では適応しない。
- (14) 主審の命令に従わないこと。審判団への不作法な態度。相手に話しかける。または相手を刺激すること。

計 量

※広島県高等学校空手道新人大会のみ適用

- 1 指定された時間内で行い、その中であれば何度でも計量できる。
- 2 器具は電子計測器を使用し、計量会場は男女に分かれて測定する。
- 3 使用する計測器は、タニタ(TANITA)社の業務用体重計またはヘルスマーターとする。
- 4 担当係員(計測係)は2名1組で行うが、女子は全て女性の担当係員で行う。
- 5 計量室には担当係員(計測係)と選手のみしか入れない。ただし、計量が最終パスできない場合、顧問(引率責任者)の先生を呼び「計測係・選手・顧問(引率責任者)」の3者で確認するので、選手と連絡の付けられるようにしておくこと。
- 6 服装は、男女共に上着は「Tシャツ(半袖)」、下着は「スパッツ(ハーフサイズ)」とし、包帯・サポーターなどの着用は認めない。また、「Tシャツ」や「スパッツ」を脱いでの計量も認めない。
- 7 風袋として測定値から0.5kgを引いた値で判定する。(−0.5kgを考慮して調整すること)
- 8 各階級(体重区分)は次のとおりとする。

男 子			女 子		
−55 kg級	55.0 kg未満		−48 kg級	48.0 kg未満	
−61 kg級	55.0 kg以上	61.0 kg未満	−53 kg級	48.0 kg以上	53.0 kg未満
−68 kg級	61.0 kg以上	68.0 kg未満	−59 kg級	53.0 kg以上	59.0 kg未満
−76 kg級	68.0 kg以上	76.0 kg未満	−66 kg級	59.0 kg以上	66.0 kg未満
+76 kg級	76.0 kg以上		+66 kg級	66.0 kg以上	

- 9 指定された時間で計量を受けなかったり、あらかじめ届け出た階級の体重区分に適していない選手は「棄権」となり、個人組手出場の権利を失う。(団体戦は出場できる)
- 10 「体重区分に適していない」とは、規定体重を超えた場合と規定体重に達していない場合である。
- 11 出場を希望する選手は、発育・発達過程にある高校生であることを考慮し、無理な減量を行わないようにすること。
(減量指導：「体重階級制競技における減量についての考察」を参照)

引率責任者・監督

1 引率責任者

- (1) 選手の全ての行動に対して責任をもつこと。
- (2) 団体の場合は、校長が認める当該校の職員とする。
- (3) 個人の場合は、校長が認める学校の職員とする。

2 監督

- (1) あらかじめ届け出された者に限る。
- (2) 校長が認める学校の指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険(スポーツ安全保険など)に必ず加入していることを条件とする。また、監督は(公財)全日本空手道連盟の会員登録者であること。
- (3) 監督の服装は次のとおりとする。
 - ア トラックスーツ、またはダークスーツ(ネクタイは大会役員と異なるもの)を着用すること。(女性のダークスーツは、スラックスでもスカートでもよく、ネクタイは着用しなくてもよい。)
 - イ トラックスーツの場合は、学校名を入れることとする。入れる場所、大きさ、字体は問わないが、華美なトラックスーツは避ける。(スクールカラーは可)
 - ウ 半袖ポロシャツへの学校名記名は問わない。
 - エ ハーフパンツのトラックスーツは禁止する。
 - オ シューズの底(素材)については、体育館フロアーを傷つけないため、ゴム製・布製のものとする。
 - カ 監督が「大会役員(審判等)」を兼ねている場合は、この限りではない。
- (4) 監督は正規申込者(登録者)以外に、つぎの条件で「追加監督」を申し込むことができる。
 - ア 団体戦で男子または女子が形・組手の両方に出場する場合や、個人戦で同種目に複数の選手が出場する場合に限り、監督1名を追加して登録できる。
 - イ 正規の申込者(登録者)が「審判員」を兼ねる場合に限り、更に監督1名を追加して登録できる。
- (5) 申請された「追加監督」は、専門部委員長および大会審判長で審査を行い、可否を決定する。
- (6) 当該選手の競技中には指定された「監督席」に着席すること。
- (7) 大会申込締切以降の追加・変更は認められない。

健康管理

- 1 競技中の疾病・傷害等の応急処置は主催者側で行なうが、その後の責任は負わない。
(傷害保険の加入・大会医師の常駐)
- 2 その後の処置については各学校で対応すること。
(健康保険証を持参すること)
- 3 故障者については、「監督または引率責任者」の責任で出場を取り止めること。